

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4079600500		
法人名	有限会社ハーティーマインドなぎの		
事業所名	グループホーム ハーティーマインドなぎの		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字安真木3379番地の1 (電話) 0947-72-7778		
自己評価作成日	平成 22 年 6 月 26 日	評価結果確定日	平成 22 年 8 月 4 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然豊かな立地環境を活かし、様々な場所に外出し、四季を感じながら生活していただいています。また、地域の保育園や学校との交流行事にも積極的に参加しております。苑では、野菜作りやお菓子作りを職員と利用者が一緒に楽しみながら、家庭的な雰囲気です。時間が流れているような事業所です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成 22 年 7 月 8 日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、目の前に田園風景が広がる自然につつまれた高台にあり、法人の有料高齢者施設等が並ぶ敷地の一角にある。玄関先にはベンチが配置され、その周りにプランター栽培の野菜・ハーブ・花があり、この時期プチトマト・胡瓜が実り、食卓に供され、利用者・職員の喜びになっている。地域交流については、老人会の廃品回収に参加協力し、町の文化祭へ作品を出展し、保育園・特別支援学校の行事に招待され、地区の鬼火焚き（どんど焼）、法人の夏祭り・事業所の餅つきに地域の人々を招待する等、積極的に取り組んでいる。花見等のドライブ外出も季節ごとに取り入れ、日常の食材の買い物に利用者も一緒にしている。職員は、小さなことでも話し合いを持ち「家庭的な雰囲気の中で…」の理念の実現に、一体となって取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえて、事業所独自の理念を作り、毎朝全員で理念の唱和を行い実践につなげている。	事業所独自の理念があり、地域密着型の視点がある。毎朝、職員は理念を唱和し共有している。日々の支援の中で、言葉かけ・態度・地域との交流等、理念の実践を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園・学校の行事や、老人会・地域行事への参加。 事業所主催の行事に地域の方の参加を募り、地域の方との交流に努めている。	地域の清掃活動や花火大会等、地域の季節行事に参加している。事業所で行う夏祭りや餅つき等の行事に地域住民を招待する等、地域との交流に努めている。また、保育園等から行事への招待があり、中学生の体験学習を受け入れる等、日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	21年度は実施なし。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、苑での取り組みや外部評価の報告をし、委員から意見ももらいサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者の状況やサービスの実際、評価への取り組み等を報告し、話し合いを行っている。委員から外出やドライブの目的地選定の情報をもらい、外出支援の参考とする等、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議へ参加をしていただき、意見・情報をいただいている。	行政と連携を図るよう努め、地域の同業者との集いを開催してほしい等と要望を出し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議にて、苑では身体拘束は行わない方針を職員と確認し、対応困難事例が起こった場合は、会議や申し送り時に拘束をしない介護方法を管理者と職員で検討を行っている。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、内部・外部研修を行っている。パンフレット・研修記録・報告書等がある。居室及び玄関は、施錠していない。職員は、利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が日常的に職員へ、利用者に対して尊敬の念を持って優しく接するよう申し送りや声掛けを行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット・テキストを設置し、必要に応じて制度があることを案内できるようにしている。	職員は、権利擁護に関する制度に関して内部・外部研修に参加する機会があり、伝達研修も実施している。研修記録等がある。家族等へは、必要に応じて制度に関して説明している。権利擁護に関するパンフレット・研修記録等がある。	制度について、利用者・家族に周知を図る為にも、契約時等に情報提供をしてほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書等を、利用者・家族へ時間をかけて説明し、質問がないかを確認した上で署名をもらっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者も参加していただき、発言の機会を設けている。また、食事をしながらや利用者の表情が気になった時に職員から声掛けを行い、意見・要望の収集に努めている。家族には、近況報告を積極的に行い、意見・要望が言いやすい環境作りに努めている。	運営推進会議に利用者や家族が出席し、希望にそって献立や排泄支援を見直す等、運営に反映させている。意見箱を設置し、家族等来訪時に意見を聴取するよう努め、事業所以外の第三者相談窓口について説明している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や定期的な職員会議で出た意見等を検討し、運営に反映させている。	自己評価は、全職員で話し合い、管理者が意見を集約している。管理者は、申し送り時や会議時等に職員の意見を聴取する機会を設け、サービス内容を見直す等、意見を反映させている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から出たやってみようを実現できるよう協力している。介護職員処遇改善交付金を利用して給与水準の向上に努めている。希望休日が取れるように配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	新規採用では、年齢・性別・資格の有無等で採用選考から排除することはない。 定年はあるが働く意欲があれば継続雇用も可能である。	職員の採用にあたっては、性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。本人の能力が発揮できる職場環境を目指し、教育訓練等へ参加する機会がある。また、本人が希望すれば、定年後も引き続き働ける環境を整備している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	21年度は実施なし。	人権に関する外部研修に一部職員が参加し、他の職員へ伝達している。管理者は、利用者の人権を尊重し、職員に対して人権教育に取り組んでいる。人権に関する研修記録、報告書等がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を実施し、日常時に学ぶ機会を設けている。 外部研修にも参加しスキルアップできるよう支援している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーが地域ネットワークに参加し、情報交換や研修を行っている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居や見学をしてもらい、少しでも馴染んでもらいながら、不安や要望を聞く機会を持てるようにしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に見学などをして頂き、家族の要望や不安の内容を確認しながら、苑でできること・できないことを説明している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前の見学や面接で、本人の置かれている状況や、心身の状況を集め苑での生活が良いか、他の方法が良いか検討をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と一緒に食事・掃除・野菜作り・おやつ作り・レク等をして、利用者が力を発揮できる場面を作っている。 職員が利用者から教わったり、心配してもらったりする場面がある。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の心身の状況を伝えながら、ご家族と一緒に喜んだり、お茶を飲みながら過ごしたりしている。 今後の治療の方向や苑での生活の方向について、家族の方にも一緒に考えてもらいながら進めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に定期的に個別に一筆書き添えた施設便りを送付している。 行きつけの美容室に行けるように支援している。 ご家族との外出や外泊も協力していただいている。	知人が事業所へ訪れたり、馴染みの美容室等へ出かけたり、家族との外出や外泊を支援する等、利用者一人ひとりの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の際の座席に配慮している。 利用者が他の利用者が座りやすいようにイスを下げてあげたり、トイレに行きたい利用者がいることを知らせてくれたりしてくださる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も情報提供の依頼があれば協力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のかかわりの中で利用者に声掛けを行ったり、行動のパターンを見つけて、一人ひとりの思いや希望の把握に努め、職員同士で確認し合いながら支援している。	職員は、利用者一人ひとりに声かけし、希望や意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者には、表情や行動、しぐさ等から本人の思い等を推し測り、職員間で協議して、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話などから得た情報を生活歴ノートに記録し、支援していく上でのヒントを集めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態を観察し申し送りを行いながら、職員全員が利用者の現状を把握し、管理者と検討を行い、支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやカンファレンスを本人・家族と計画作成担当者と介護職員で行い、意見を出し合って介護計画を作成している。参加できない家族は、電話にて意見要望等、確認している。	利用者、家族、主治医、職員の意見を反映した個別具体的な介護計画を作成している。月1回モニタリングを行い、3ヶ月に1回また状態の変化に応じて、現状に即した介護計画を見直している。介護計画は、利用者及び家族が了承した署名がある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子など個々のケース記録に書きとめ、特記事項は申し送りノートに書き、全職員が眼を通し情報を共有し、実践に活かしている。必要に応じて介護計画の変更を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や往診・法事等、必要な支援は柔軟に対応している。入院時の日用品の補充・洗濯物の取替え等、行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	パン屋さんが週に1回訪問販売に来てくれ、自分で購入することが出来る。 隣接施設の催しへの参加。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時にかかりつけの病院の希望を聞き、受診の支援を行っている。また必要があれば、内科医師や歯科医師の往診を受けられるようにしている。	事業所は、利用者及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。利用開始時に、家族と緊急時の受診介助や情報伝達方法について話し合い、合意している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態に変化があったり、気になることがあった場合は、かかりつけ病院に電話相談を行い、指示をもらっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時に病院と苑とでサマリーでの情報交換を行っている。 病院での面会の際に、利用者の状態の確認を行うようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時において、苑での看取りはしないこと伝えるようにしており、重度化・終末期に向かっている利用者や家族に対し段階的に、病院・家族・苑で意見を聞きながら、苑としてどこまで見ていけるか説明し、次の生活の場を一緒に考えてもらっている。	重度化した場合や終末期のあり方について事業所の方針があり、利用開始時に利用者や家族等へ説明し、同意を得ている。利用者本人の状態を見ながら、家族、職員、かかりつけ医で話し合い、方針を共有している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル・緊急連絡網を整備している。 急変が予想される場合はケースごとの対応方法を申し送り確認している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間及び日中の消防訓練を行い、隣接する施設の職員や運営推進委員との協力体制をとっている。 災害時の備品の整備を行っている。	マニュアルを作成している。年2回、消防署の協力を得ながら、避難訓練を実施している。地域住民へは、運営推進会議で協力依頼を行っている。非常用食料・飲料水・備品は、事業所内に準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者より、随時プライバシーに関して職員へ指示・声掛けをし、職員への意識付けを行っている。 排泄に関する支援には、特に配慮するようにしている。	管理者は、職員の言葉かけや対応について、利用者一人ひとりの誇り等を損ねないように日頃から指導している。内部研修やミーティング時に、職員の意識向上を図っている。内部研修記録がある。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お風呂に入る回数・時間は、本人に決定してもらっている。レクリエーションで何をしたいか希望を聞いている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気分に合わせて散歩をしたり、睡眠をとったり、無理せず1日の過ごし方を変えている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の衣服を自分で選んでもらったり、マニキュア・パーマ染めなど、お洒落ができるよう支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配下膳の手伝いやおやつ作りの手伝いをしてもらっている。 食事の座席を配慮しながら、職員と一緒に食事をしている。	職員は、利用者と一緒に準備・片付けを行い、利用者と同じ食事を同じテーブルで食べている。天気の良い日は弁当を作って外出し、献立は利用者の要望や嗜好を反映する等、食事を楽しむことができるよう支援している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ・とろみ・減塩など、病状に合わせた食事を提供している。 水分摂取量が少ない利用者には、摂取回数を増やして水分摂取量が増えるよう支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、朝と夜に口腔ケアを行っている。 歯科往診時に口腔ケアを行ってもらっているようにしている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の動きを観察し、排泄に時期を把握してトイレ誘導を行っている。 歩行訓練をして、トイレでの排泄が可能になるよう支援している。	職員は、排泄チェック表を作成して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、家族と相談しながら、常に排泄の自立を意識したケアを心がけている。失禁の際は、本人の自尊心を傷つけないよう声かけ等に配慮している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く使用したり、散歩をして便秘予防に努めている。排便のない日が続いた場合は、かかりつけ医師や往診医師に相談し、早めの対応をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるようにしている。 午前中のバイタル測定で異常があった利用者は、入浴前に再度測定し、安全に入浴できるよう配慮している。	利用者一人ひとりの状況等に応じて、いつでも入浴できるよう支援をしている。入浴拒否の利用者へは、声かけ等を工夫して、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の睡眠のリズムに合わせて食事をずらしたり、睡眠のリズムが崩れた利用者には、日中好きなことをしてもらったり、日光浴をしてもらい、リズムの調整をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更・追加になった場合は、申し送りノートに記録し、薬の効能・副作用を確認している。また服薬後の利用者の状態を観察し、医師への相談・報告を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日めくりや台拭きや洗濯たみ等、できることを利用者をお願いしている。 食材の買い物をして、一緒に出かけたりしている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所へお弁当を持って出かけたり、季節に応じた行事を計画し、戸外に出ている。	利用者一人ひとりの希望や天候等を考慮しながら、散歩や買い物等、支援している。季節の花見や果物狩り、虫見物等、普段は行けないような場所への外出は、家族の参加も得て、支援している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週一回のパンの訪問販売時に、自分でパンを買えるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば、職員は家族に出すための手紙を書く支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には行事の写真や利用者の作品を飾り、楽しかったことを思い出せるようにしている。 天窓より自然採光を取り入れ換気をして、なるべく外気を取り入れるようにしている。	居間は、食卓テーブルとは別にソファとテーブルを設置し、玄関アプローチには木製のベンチを設置する等、利用者一人ひとりが思いおもいに過ごせるよう配慮している。また、写真等を飾り、花や野菜をプランター栽培する等、生活感や季節感を採り入れている。利用者にとって不快と感じるにおいや音はなく、天窓を設置して自然採光をとり入れ、明るく落ち着いた雰囲気である。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にベンチを置き、一人の時間が作れるようにしている。 ソファを置いて、気の合う利用者がくつろげる場所もある		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具やテレビ・本・小物等を置いて、本人が落ち着けるようにしている。	居室には、利用者の使い慣れた家具や家族写真等があり、利用者一人ひとりの個性が感じられる。毎日、職員と利用者が共に居室の掃除を行い、利用者が安心して居心地よく過ごせるよう配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ポータブルトイレやベッドの配置を、利用者の状態に合わせて変えている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	-	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2/3くらいと
				③家族の1/3くらいと
				④ほとんどできていない
66	-	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	-	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	-	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2/3くらいが
				③職員の1/3くらいが
				④ほとんどいない
69	-	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
70	-	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2/3くらいが
				③家族等の1/3くらいが
				④ほとんどいない